

東京未来ビジョン懇談会（第8回）

平成30年4月27日（金）

— 議事概要 —

東京未来ビジョン懇談会（第8回）

平成30年 4月27日

【岩瀬次長】 それでは、定刻になりましたので、ただいまより第8回東京未来ビジョン懇談会を開会いたします。本日の進行役を務めさせていただきます東京都政策企画局次長の岩瀬でございます。どうぞよろしくお願いたします。

本日の出席者は、お手元の配付資料のとおりとなっております。

次に、会議の公開についてご説明いたします。本日の会議の様子は、東京都のホームページ上でインターネット中継により配信されております。報道機関の皆様は、懇談会の冒頭から終了まで取材が可能です。

また、本日の会議資料、議事概要並びに中継映像につきましては、ホームページ上に公開してまいります。

なお、本日の次第及び会議資料はタブレット内に入っております。タブレット内の資料は自動的に説明時に動くようになっております。

それでは、開会に当たりまして、小池知事よりご挨拶をいただきます。知事、よろしくお願い致します。

【小池知事】 皆さん、こんにちは。何か久しぶりにお会いするような気がしますけれども、今回8回目となりましたビジョン懇談会、略称「ビジョ懇」。「ビジョ懇」と言うと、みんな、頭の中、色々な妄想するんですね。美女もそろって美男もそろって、これからの東京都をどんな東京にしていきたいか、そのビジョンを語り合うということで、昨年1月からの立ち上げで、あっという間に1年3カ月が過ぎていこうとしております。皆さんにそれぞれプレゼンをしていただきまして、そして、これからどういう取りまとめにしていこうかという、そういう話、流れになってまいりました。

皆さん、第1回の懇談会で私からプレゼンをさせていただいたのを覚えていらっしゃいますか。報知新聞、117年前の1901年、昔々の報知新聞に出ていた「20世紀の豫言」というのをお伝えして、皆さん、大変びっくりされたと思います。そんな昔に、こんな発想をしていたんだ。そして、もう一つ、びっくりすることは、そのとんでもない発想と思われていたものが今や実現をしているということでございます。ヨーロッパで写した写真をカラーで東京の新聞社に送れるなんて、全然びっくりしないよね。それから、世界一周7日で

できるなどということですが、もう田根さんなんか、フランスとの間をしょっちゅう行ったり来たり、バスみたいね。というようなことをございまして、もう本当にあつという間に色々なことが実現してしまうからこそ、皆さんには何事にもとらわれず、そして、ああ、こんな東京にしていきたいというような、そういう思いをぶつけていただければと思ってまいります。

そして、今回のビジョ懇ですけれども、毎回のプレゼン、そして議論を踏まえながら、2050年ころの東京に照準を当てて、そして、メンバーならではのアウトプットの準備を進めてまいりました。ということで、これまでの活動の一つの区切りを今日まとめていきたい、そして、そのアウトプットを都民の皆さんにお披露目をする、そういう段階かと存じます。一種、これまでの集大成とも言える回と、このように皆さんと認識を共有して進めていきたいと思っております。是非今日はそういうことで、まとめの日だということでよろしくお願いを申し上げます。

【岩瀬次長】 知事、ありがとうございます。本日はまず、懇談会のアウトプットにつきましてご説明がございまして。その後、各メンバーの皆様からコメントをいただきまして、おおむね15時45分ごろの終了を予定してございます。

なお、今回でこれまでの懇談会につきましては一区切りとなりますので、懇談会終了後にフォトセッションや囲み取材を予定してございます。

それでは、恐縮ですが、知事からアウトプットの全体像につきまして説明をいただきたいと思っております。よろしくお願いをいたします。

【小池知事】 それでは、早速、ビジョ懇のアウトプット、「21世紀の豫言」、20世紀じゃないですよ、「21世紀の豫言」、これについてご紹介をさせていただきます。正面に出ていますけれども、蜷川さんの写真、フォトを活用させていただきました。このアウトプットですけれども、当然ですが、ビジョ懇メンバーの皆さんで検討しながら作り上げてきたものであります。それから、これは今日からビジョ懇の特設ホームページ、つまりウェブ上で展開をすることといたしております。もちろんスマートフォンからも閲覧が可能です。ございます。

内容ですけれども、まず、皆さん、このメンバーで考えていただいた2050年頃の東京の未来の姿について、「7つの資本(ちから)」、「資本」と書いて「ちから」と読みます、「7つの資本と70の豫言」という形でまとめております。お手元に、瓦版のイメージ、緑の「T」と書いてある、「T for TOKYO」、富士山が眺められるという、ちょっと大き目の冊子に

なりましたけれども、内容としては、今申し上げたように、7つの資本と70の豫言ということを見開きの所にズーっと散りばめてあるということです。

また、メンバーの皆さんが考える未来のビジョンについて、インタビューや寄稿を掲載いたしております。まずはホームページ上です。そして、メンバーの山科さんには、ありがとうございます、漫画を描いていただきました。2050年の東京を描いた近未来のコメディということで、このビジョ懇が舞台だったり、メンバーの皆さんが出演されたり、未来をポジティブに感じられる、とてもすばらしい作品でございますので、ご覧いただきたいと思います。これは、ここは漫画は見られないんだっけ。そうか、そうか。ずっと横にしていれば、スライドしていれば漫画も見られますので、あら、これ、私と思いながら見ていただければと思います。

それから、先ほどお話しさせていただきましたように、最初の表紙でありますけれども、この写真はメンバーの蛭川さんの作品を使わせていただいております。このように、ビジョ懇のメンバー全員の創造力の結集がこのアウトプットにまとめられているということでございます。

それでは、ウェブの構成など、詳細については事務局から説明をしてもらいます。よろしく申し上げます。

【宮澤部長】 それでは、ウェブサイトの構成などにつきましてご説明申し上げます。正面の画面またはお手元のタブレットをごらんください。

まず、トップ画面でございますが、右側にはそれぞれのメニューが並んでおります。この順番にご説明申し上げます。

まず、こちらはアーカイブページでございます。これまでのビジョ懇の開催概要などを掲載してございます。過去の懇談会の様子も動画でごらんいただけるようになってございます。

続きまして、「21世紀の豫言」でございます。こちらはお手元にお配りしております、この緑の冊子でご説明をさせていただきます。お開きいただきますと、左側に「20世紀の豫言」とございます。こちらは先ほど、知事からもご紹介がございました、1901年の報知新聞の記事でございます。そして、右側は、このビジョ懇で取りまとめました2050年ごろの東京の未来の姿、「TOKYOの未来を創る7つの資本と70の豫言」という形で掲載してございます。このリストにつきましては、お手元にあわせて配付してございますので、ご参照ください。このうちから、幾つかご紹介申し上げます。

まず、「Technological Capital」でございます。東京とワシントンはロケット飛行機で30分など、テクノロジーで新しい生活や社会インフラを構築する力という視点での未来が描かれてございます。

続きまして、「Creative&Inspirational Capital」では、時空を超えて物や人を転送できる技術（タイムマシン）の発明など、創造性で驚きの未来を生む力という視点での未来が描かれてございます。

続きまして、「Economic&Financial Capital」では、仕事はA Iにお任せ、趣味や遊び、家族との時間が充実など、世界一の経済活動を生む／支援する力という視点での未来が描かれてございます。

続きまして、「Global Capital」では、ロボットたちのオリンピック（ロボオリンピック）が東京で開催など、国際的な包容力と個性をあわせ持つ力という視点での未来が描かれてございます。

続きまして、「Ecological Capital」では、人間の生活や活動によって生み出される全てのエネルギーが再生可能になど、地球環境と都市を両立する力という視点での未来が描かれております。

続きまして、「Educational Capital」では、世界最高長寿者が150歳を超え、大学生の半数以上、博士号取得の大半が高齢者など、誰もが自由に学べ、生涯成長を続けられる力という視点での未来が描かれております。

最後に、「Cultural&Historical Capital」では、東京ブランドのK I M O N Oが世界中で大ヒットなど、東京ならではの文化と歴史を育む力の視点での未来が描かれております。

また、裏面には、懇談会から都民の皆様へのメッセージを記載してございます。

続きまして、ウェブ画面に戻らせていただきます。座長挨拶・ビジョンの画面でございますが、こちらは座長であります知事からのご挨拶、それから、メンバーの皆様が考える未来のビジョンにつきまして、一人一人掲載してございます。

まず、メンバーの一覧がございまして、例えば、伊勢谷さんのページでご紹介させていただきますが、このように、メンバーのインタビューの様子を掲載させていただいております。また、寄稿をお寄せいただいた方につきましては寄稿を掲載してございます。

続きまして、漫画でございます。こちらが、先ほど知事からもご紹介がございました、山科さんに描いていただきました漫画でございます。大作でございますので、こちらも後ほどゆっくりとごらんいただければと存じます。

以上でウェブの概要のご説明とさせていただきます。

【岩瀬次長】 それでは、ここからの進行は、恐縮ですが、知事、よろしくお願いいたします
します。

【小池知事】 ということで、それぞれ紙ベース、ウェブベースで、この後発表する、
このアウトプット、皆さん、どんな印象を抱かれましたでしょうか。そして、一つずつ皆
様方のこれまで話してこられたことなど、言葉遣いなどはより分かりやすく、もしくは、
ちょっと表現を変えたりもしているかと思いますが、皆さんのこれまでの色々な考え方と
いうか、ビジョンをこのように落とし込んだものです。

では、お一人ずつご感想もいただければと思うんですけども、みなみちゃん、いこう
か。

【高橋みなみ様】 高橋です。よろしくお願いします。久しぶりに参加できてうれしい
です。

【小池知事】 本当だ。

【高橋みなみ様】 お願いします。こうやって形になると、やはりうれしいですね。そ
して、みんなの7つの資本、70の豫言ですけども、起きたらいいなということがたくさ
ん詰まっていると思います。ビジョン懇談会に参加するなかで、もっと頭をやわらかくと、
すごく自分に言い聞かせていたんですけど、やっぱり人の考えていることは現実になる
という言葉聞いたことがあって、未来に起こることは我々の考え次第で変わるのかなと
いうのはすごく思いました。ここにあることは、そんなこと起きないよって、今は皆さん思
うかもしれないですけど、見ててよっていうところですよ。それはもちろん、今生きて
いる我々が頑張らなければいけないんですけども、そういう面白いことがたくさん書い
てあるので、未来は明るいなと思いました。ありがとうございます。

【小池知事】 ありがとうございます。じゃ、この順番でいきましょう。

田根さん、お願いします。

【田根剛様】 これを例えば、アウトプットとして、約1年間かけてきた、メンバーで
出てきた様々な発想があります。同時に、これを読んだ人たちが、もっとこんなことある
んじゃないかとか、そういったことを更新できるようなことがいいかなと思うと、何かし
ら、このホームページを閲覧して終わりよりは、意見箱ではないんですけども、発想が
あると、どんどん増えていって、それがみんなに広がったり、アイデアがあれば誰でも提
案できるという開かれた場があると、日々のホームページなんかはすごく有効かなと思

ました。

【小池知事】 ありがとうございます。

【青木亮輔様】 これだけバリエーション豊かなアイデアが出るというのが、東京という都市の懐の深さというか、様々な人が暮らしているところが感じられるというのが率直な感想です。僕は幾つかアイデアを出させていただいて、都市が地下に潜ってなんていうようなアイデアで出させてもらったんですけども、それというの、今の暮らしを振り返ると、都市化がどんどん、どんどん進んでいく東京の未来というのは色々想像ができるんですけど、田根さんの前の古墳スタジアムじゃないですけども、また都市が地下に戻っていくというようなものもあって、地上が緑で覆われて、そこで生産活動とか電力が生産されたりとか、そういった東京もちょっと見てみたいみたいな、そういった希望的観測でアイデアを出させてもらったりとか、そういうことを考えるきっかけをもらったというのがすごく素敵な時間だったと思いました。ありがとうございます。

【小池知事】 ありがとうございます。

【田口亜希様】 田口です。今日はありがとうございます。最初、この懇談会のお話を聞いた時に、私でできるのかなと思ったんですけども、その趣旨とかを伺って、何か、ちょっと楽しそうだなって、色々な自分の思いとか創造力とかをどんどん出していけるのかなと思ったんですけど、いざ自分がやろうとすると、やっぱりどこか凝り固まったところとか、いや、こんなこと、やっぱり無理だよなと考えるところがあったりしたんですね。でも、改めて皆さんの発表とかを、この豫言を考える時、色々な皆さんの発表されたことを読み直した時に、あっ、何て素敵なメンバーで、今まで自分がいなかった世界の人、違う人たちの色々な話を聞けたということで、これをもっともっと自分も勉強して、それを落とし込んで、色々なところを結びつけて、もっともっと発想したり、無限大の発想というんですかね、そういうのがもっとできたら良かったなと思ったんです。1年間だと私の中では足りなかったんですけど、是非また、皆さんと別の場所でも、もっともっと考えていけたらいいかなと思います。

そして、それをただ、とんだもの考えるだけじゃなくて、それをどう実現していくかというところも創造力をかき立ててやっていきたいと思います。是非東京からどんどん発信していただきたいと思います。よろしく願いいたします。

【山科ティナ様】 山科です。今回、ビジョ懇に参加させていただいて、未来に対して不安を持っていた部分もあったんですけど、皆さんの意見だったり発表を通して、すごく

わくわくするような発想を得られるようになりました。漫画も今回、やっぱり次の若い世代というか、今の小学生でも読めるような形を意識して描かせていただきました。今回、アウトプットを展開した後も、次の小学生とか若い世代が未来を創造した、交流できる場とかそういうイベントがあったらいいなと思ったりしました。ありがとうございます。

【西田圭志様】 西田です。今回ビジョ懇に参加させていただいて、個人的には漁業という、多くの人にとって身近でない職業とかについて知っていただけた、また、僕自身も違う分野について色々勉強させていただいたのがすごく楽しかったし、大きな意味があったんじゃないかなと思いました。

【浜田愛音様】 浜田です。今回のビジョ懇を通して、私は、私たちの世代がもっと東京の未来について深く考えていかなければならないのだなということに気づきました。また、学生内閣 J A P A N の活動においても、この7つの分野、「Technological Capital」などの分野に私たちのアイデアを落とし込んで考えていきたいなと思いました。私が今回すごく面白いなと思ったのが「Creative&Inspirational Capital」のところで、6番の「寝る前に、見たい夢を選択できる」というところが私個人的にはすごく気になりまして、例えば、見たい夢のストーリーを自らつくって、それをタブレット上に送って、自分で寝る前に選択できる。そうしたら、寝る前にもっと寝ることが楽しくなるのかなと。個人的に寝れないこととかあるんですけど、そういうのが無くなって、もっと明るくなるのかなということも思いました、なので、これからもこの活動を続けて、私の学生内閣 J A P A N の活動を続けていく中で、7つの分野にせっかくなので活用して、これからも活動を続けていきたいと思います。ありがとうございます。

【大内尚樹様】 学生内閣 J A P A N の大内です。こういうような学生の立場で意見を言わせてもらうという環境は他には全く無くて、そういう環境を与えてくださった皆様には感謝しています。

昔がこうだったから未来もこうだという決めつけだけではなくて、これからは時代や環境の変化に合わせて、学生目線で未来を考えていければと思っています。学生内閣 J A P A N でも、教育や文部科学省、外務省、防災省、総務省、法務省のように、様々な分野で将来に対して希望を持っている学生がたくさんいることが分かっています。それなので、私たちも学生として、学生が考える未来を一緒につくっていけたらと思います。ありがとうございます。

【メイミ様】 メイミです。今回、このような形でアウトプットということで、こちら

に様々な未来の豫言が書かれていますが、これを見ていると、うそみたいな楽しい未来がたくさん書かれている。でも、これまでの懇談会を振り返っていくと、様々な分野の人たちが色々な視点で発言をしていく中で、このうそみたいな未来がもしかしたら本当にやってくるかもしれないというようなことを思える場だったなと思いました。

この発表が、これで一つのゴールではなくて、更にここから都民の皆さん、そして私たちの後に続く若い世代、子供たちがここから更に明るい楽しい未来を創造して、色々なイメージを膨らませて、より東京が明るく活性化していくといいのかなと思っています。ありがとうございました。

【菊地祐介様】 ピアニストの菊地です。今日、アウトプットという、その日を迎えましたけれども、正直、僕はここからが出発点かなと思っていて、自分自身も、今までの人生、とにかく自分の専門性を追求することに命がけで生きてきましたけれども、結局、この懇談会に参加してみて分かったことは、自分の思っていることと皆様の考えていることと、外から見た世界と色々、これは掛け算をしていったら、きっと素晴らしい未来をつくっていけるんじゃないかと。自分たちが忘れていた可能性みたいなものを思い起こさせていただきました。

やっぱり都市というのは、人々のコミュニケーションの場だと僕は思っていますので、こういう機会をきっかけにして、どんどん、どんどん、これからもっとコミュニケーションを活発にしていくことが都市に生きる者の使命なのかなというようなことも感じました。これからも社会の一員として頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。

【長谷部健様】 渋谷区長の長谷部です。思うと、ふだんやっている仕事というのは、課題解決をすることが結構多くて、課題に対してどうアプローチしていくかということが多かったんですよね。でも、これをつくった時に非常に思ったのが、可能性を開拓していくというか、可能性に対してイメージを持っていくとか、本来ならば、そういった先のビジョンは政治にとって必要なはずなのに、結構得意だったはずだったんだけど、一瞬、いつも考えていることから2050年のことを考えるというふうに頭をスイッチした時に、ちょっと、おおっとなったんですよね。だから、忘れていたものを取り戻したというか、忘れちゃいけないものを改めて見つめ直せたという感じがしました。やっぱり可能性を開拓するというのは、これから本当に必要なことだなというのを改めて感じるいい機会でした。ありがとうございました。

【伊勢谷友介様】 皆様、ご苦労さまでした。リバープロジェクト代表の伊勢谷友介

です。皆さんの意見、締めるみたいな雰囲気になっているのが、ちょっと僕、歩に合わないんですけれども、何か最初の田根さんの意見から、皆さんの雰囲気からして、やっぱりここからもうちょっと、ますます、今回は東京都について僕らだけが意見を出し合ったかもしれないけど、もしかしたら多くの人々がどんどんこれから意見を出して、それがもしかしたら形になっていくような、そんなきっかけになるような形になっていくということが、皆さんも思っているし、そうなったら一番素敵な形だし、この東京未来ビジョン懇談会のあった意味も、そこにそれこそ終結するのかなと思いました。なので、今回、皆さんと一緒につくりました、この7つ、21世紀の豫言集も含め、今後、それ以外のプロジェクトもやりたいなんて言っていたりするんですよ。それって、話しちゃダメなやつですか。

【長谷部健様】 いや、いいんじゃないですか。

【伊勢谷友介様】 すごろくとか、渋谷区長はつくりたいとか言っているんですよ。

【長谷部健様】 人生ゲームみたいな感じで、2020年から出発して2050年にゴールしていく。これを時系列に並べていくと、そういったすごろくになるんじゃないかとか、ちょっとユニークさも入れて。

【伊勢谷友介様】 考えていけば、1950年バージョンの人生すごろくと2020年バージョンの人生すごろくはおそらく違うものが見えてきているし、もしかして一つ言えば、子供の勉強の中でも、僕らはもしかしたら、昔であれば、どんどん経済を大きくしていこうというところに正義があったけど、もしかしたら2020年になったら、どうやったら未来がつかれるのかということが一番大事なことになっているかもしれない。その常識の変化もすごろくとかで描けたらなんていう話をしています。

【長谷部健様】 すごろく、やる気になっている？

【伊勢谷友介様】 いいアイデアだなと思うけど、コンテンツとしてすごく大変なので、最後の未来ビジョン懇談会の遺産として是非予算をつけていただいて、もうこのそうそうたる皆さん、多分、僕らよりも処理能力の高い方が席に座っていらっしゃると思うので、皆さんの力もお借りしながら、そんなのをつくれたらなんて思いました。

これは今度、個人的なんですけれども、そういう意味もあってなんですけど、以前、都知事に紹介いただいた100年前の豫言、これについて、じゃ、その人たちがどういう意識でイメージしていたかなと思うと、やっぱり便利になるとか楽しいとかという興味だったりとか、本能的にしぶれるよねみたいなのところにすごく重きを置いていたし、それであって良かった時代だったんだけど、でも、はたまた今やここに立ってみて未来のことを考えた時

に、危機的な未来を考えないで僕らは考えなくなっているという、一段階成長した、成長
というか、一段階条件が変わっているんだなというのも同時に実感したビジョン懇談会だ
なと思いました。なので、僕はもうちょっと、社会的に頑張られるということで、僕も頑
張りつつも、もっともっと思いを具体的な形にして実行して、それがあ意味評価されて、
評価されれば、その次の形、それがだめだったら次の形をつくらなきゃいけないですしと
いう、そういうサイクルに回るような仕組みがあってもいいのかなと。それにむしろ、都
民のそういう意見に、我々もさせるようになったら、この懇談会の意味もあるんだらう
なと、なお思うところがございます。ご苦労さまでした。ありがとうございました。

【小池知事】 ありがとうございました。皆さんからもまた積極的なご意見も伺いまし
た。田根さんからは、ホームページ、自分だったらこんなアイデアがあるよとか、そうい
う受け皿になれるように、そこはホームページ上で工夫してみます。それによって、また
すごいアイデアとかビジョンが出てくれば、それは皆さんが火つけ役になったという証拠
になるかと思えます。

「21世紀の豫言」の中に、幾つか面白いのがありましたよね。夢を選べるというの。ど
ういうふうにするんだらうなと。チャンネルを選ぶみたいな感じなのではないかな。それ
から、がんがもう病気ではなくなるとか、自動運転が徹底して交通事故がなくなるとか、
そんなビジョンもありました。それから、ドローンみこしというのがありますけれども、
最近私は私も、東京ってあちこちにおみこしを担ぐという伝統がありますけど、担ぎ手がい
なくなっているんですよ。若い人がいなくなって、地域で貸し借りなんかしちゃったり
して。というか、手伝いにば一つとおみこし、好きな人いっぱいいますし、そして、地域
によって手伝いに行ったりするんですけど、これはドローンでおみこしという、とて
も面白い発想だなと思ったんですね。

ドローンというのは、今、特区を設けていて、防災の時なんかは、ぶ一つと上から見ま
すと、どこが問題かというのがよく分かりますでしょ。でも、このドローンというのもす
ごい日進月歩で技術が進化していて、この間、びっくりして見つけたのが、出せるかな。
皆さんのお手元にもペーパーであるんですけど、これ、ドローンタクシーなのね。

【高橋みなみ様】 タクシーですか。

【小池知事】 タクシー。もう既にやっているの。一人乗り。

【高橋みなみ様】 乗っているんですか。

【小池知事】 乗っているの。そして、既に幾つか、何社かもう真面目に取り組んでい

て、日本でもそのことに取り組んでいる方がいらして、東京都主催の若手起業家コンテストでも受賞されているのね。こういう世界って本当にまばたきしている間にどんどん変わってきちゃうので、ひょっとしたら「21世紀の豫言」って、2050年どころか、ひょっとして、あっという間に実現できてしまうかもしれない。それぐらい我々、そして、これからの皆さんはすごい時代に生きているということだと思います。

だからこそ、この東京をみんながわくわくし、そして安心して安全で楽しい、そういう東京にしていく意思を持たなくちゃだめだなと思います。1年3カ月、本当にここで楽しい会話、刺激をし合うような会話、ジャンルを超えて、皆さんと共に、同じ方向性など、または、私だったらこうするわとかと言って、色々なやりとりがここで行われてまいりました。締めといても、先ほどもおっしゃったように、これがまたスタートになってくるかだと思います。そして、せっかくここまでバラエティに富んだ素敵な皆さんにお集まりいただいているので、これからもそれぞれ、ご見識、発想力、お貸しいただくこともあろうかと思っていますので、またご連絡させていただくことがあろうかと思っています。

色々とすばらしいアイデアを提供してくださいましたビジョ懇でございますけれども、これからもビジョンを持って、そして、ビジョンを描き、かつ、それが実現する東京であり続けたいと、このように思っております。今日はこの後、フォトセッションとかの用意もしておりますので、まずは、こちらでクローズさせていただきたいと思います。本当に皆さん、ご協力ありがとうございました。

【岩瀬次長】 どうもありがとうございました。

以上をもちまして、第8回東京未来ビジョン懇談会を終了いたします。皆様、まことにありがとうございました。

なお、本日はこれよりホールにてフォトセッション及び囲み取材を行います。まず、報道機関の皆様はホールへのご移動をお願いしたいと思います。知事並びにメンバーの皆様は、恐縮ですが、その場でいましばらくお待ちください。

— 了 —